



E. F. 日本語日本文学科 2 年次生

参加期間： 2011 年 3 月 6 日～3 月 13 日（8 日間）

I. プログラムについて

実習では、日本の大学では体験できない本場の日本語の授業を見ることができました。色々な先生の授業を見ましたが、それぞれ教え方もクラスの雰囲気も違い、様々な先生像を見ることができました。

いい経験になったことは、言葉の大切さを実感したことです。自分たちでは普段使っている日本語でも伝わらないことがありました。そんな時、いかに簡単な日本語を使うのかがポイントになるなと思いました。そして、学習者から学ぶことが沢山あったこと。学習者は最大の先生です。



大変だったことは、やはり言葉です。私は関西人なので標準語に直すのはとても難しく感じました。イントネーションの違い、無声母音というものも初めて知りました。

教壇実習はとても楽しくできました。学習者はみんなとても積極的でやり易かったです。実習後は大きな拍手をしてくれました。感動しました。

実習以外の時間は、政治大学の学生チューターさんが色々な所に連れて行ってってくれました。朝ごはんも夜ごはんも、外食です。とても楽しかったです。そして、沢山話すことができました。朝は宿舎まで迎えに来てくれて、夜は宿舎までちゃんと送ってくれました。このチューターさんたちのおかげでとても充実した日々を送れました。





Ⅱ. 参加希望者へのアドバイス

台湾は結構暖かいと思っていましたが、なかなか寒かったので防寒対策はしっかりしておいた方が良いかと思います。また今回滞在した台北は、山に近いので常に曇った天気です。雨がよく降りました。なので、傘は必需品です。台湾と日本の電圧は同じでドライヤーや携帯電話の充電も日本と変わらず、普通にできました。

教壇実習に関しては、あらかじめ日本で教案を準備して行きますが、まずは自分のやりたい教室活動をイメージして教案を作り、そこから色々な人にアドバイスしてもらい、改善していきます。でも人の意見ばかり鵜呑みにしてしまうと自分らしい教壇実習ができません。最後まで自分らしさを失わず、自分らしいスタイルで本番に臨めばいいのです！！





S. F. 日本語日本文学科 3 年次生

参加期間： 2011 年 3 月 6 日～3 月 13 日 (8 日間)

I. プログラムについて

平日の夕方ごろまでは校内で授業見学や実習準備をしました。1 つの授業は 100 分 (50 分×2) あるのですが、先生は学習者が興味を持つような話題を話したりして、楽しんで勉強出来るように工夫しているんだなと感じました。

教壇実習は、準備をしている時や先生から指導案の手直しをしていただいている時は、上手くいくだろうかとか、みんな分かってくれるだろうかとかとても不安でしたが、学習者はみんなあたたかくて、たくさん笑ってくれたり、質問に答えてくれたりしてとても安心しました。50 分ほどの短い実習でしたが、また教壇に立ちたいと強く思える経験になりました。



放課後はチューターのみんなに色々なところへ連れて行ってもらいました。美味しいものを食べたり、綺麗な風景をみたりしてみんなではしゃいで、とても楽しい時間を過ごしました。みんなと別れて日本に帰るのがとてもさみしかったです。



II. 参加希望者へのアドバイス

最初は参加するのをとても迷いました。外国で教壇実習をするというのは想像することも出来ず、参加することが決まってもとても不安でした。だけど実習を終えた今、本当に参加して良かったと心の底から思っています。自分の人生においてとても貴重で忘れられない経験になりました。出来る事ならまた参加したいとも思っています。



台湾の学生はみんなとても純粋で素直です。チューターさんとは帰国した今でも連絡をとるほど仲良くなり、みんなと過ごした 8 日間は非常に短く感じました。

少しでも日本語教師という仕事に興味があるなら是非参加してほしいです。やはり日本人相手の模擬授業には限界がありますし、実際にたくさんの外国人に教えるという経験は滅多に出来ないと思います。将来日本語教師以外の道に進むとしても、参加しておいてきっと損はないはずです。

